

有職女性も参加できるボランティアに

I・S・S会長

石田 秀さん



いしだ・ひで

1965年大谷女子短期大学卒。同短大の英語科助手、デザイナー・森英恵さんのブランドショップ勤務を経て、67年ニューヨーク州立ファッション工科大に留学。帰国後、自身のブランド「HIDE」を立ち上げる。98年I・S・Sを設立、会長に就任。豊中市在住。

ファッションデザイナーの石田秀さんが、9年前に有職女性を中心としたNGO、I・S・S（インターナショナル・ソーシャル・サービス、会員80人）を設立、途上国の子供たちの教育に、地道な資金援助を続けています。今年1月、アフリカ・モザンビークのゲブーザ大統領夫妻が来日した際

にも、仲間から集めた寄付金を手渡しました。「日本では少額でも、向こうではお役に立てる」と石田さん。I・S・Sでは、2001年にも、同国へ足踏みミシンを寄付し、感謝状を贈られています。「東京でアフリカ開発会議があり、そのとき出会った当時の大統領夫人、チサノさんから、足

踏みミシンを集めるプロジェクトへの協力を依頼されたのです。アフリカは遠いので、アジアに比べると日本の援助が少ないですよ。子供たちを学校へやるためには、まずお母さんが自立し、収入を得ることが必要。新聞で募ったら全国から電話が400件もありました。会員は応対に大わらわ。最終的に55台を送ることができました」と、当時を振り返ります。

いま、手をさしのべてほしい

石田さんが活動を考えたのは40歳代のころ。「生地の手入れで訪れたフィリピンやインドなどでストリートチルドレンを見て、なにか援助ができないかと思った」のが始まりです。「仕事を持

つ女性は、なかなかボランティア活動までできません。でも、子供たちは、いま手をさしのべてほしいのです。リタイア後では遅いのです。だから有職女性も参加しやすい会にしました」

I・S・Sでは現地へ行く時間はないから、確かな現地情報を伝えてくれるゲストスピーカーを呼んで定期的に勉強会を開いています。「女性が働くのはいろんな意味でハードだけど、現地からのレポートや写真を見ると、また頑張ろう、というパワーがわいてきます。活動を通しての人間関係など、得るものは多いですよ」と目を輝かせます。

（編集委員 大野和子）

※I・S・S 06（6

448）88031。